

九州女子大学 家政学部 栄養学科

令和2年度 社会人入学試験 I 期

出題のねらい・解答例

【小論文】

家政学部栄養学科は、管理栄養士の養成課程である。「食品」、「健康」、「病態」等栄養に関して幅広い領域を学ぶ学科である。社会人入学選考では、社会情勢にも関心をもち、新聞やニュース等の情報を通じて、自分なりの考えをまとめることが望まれる。

《出題のねらい・解答例》

問1は、「厚生労働省 健康日本21（第二次）」を基に、現在の日本人の栄養状態の傾向および問題点などの知識を問う問題である。栄養を取り巻く環境に対して普段から情報を収集しているか否かを判定した。

問1の解答

1 [6]	2 [8]	3 [2]	4 [13]	5 [9]
6 [11]	7 [3]	8 [10]	9 [15]	10 [5]

問2は、平成29年度国民健康・栄養調査「やせの者」の割合の年次推移を20歳～50歳代別に示したグラフについての読解力、分析力を問う問題である。傾向を的確に読み取り、さらに体格の推移から変化率の計算力、問題点について説明できるか否かを判定した。

(模範解答例)

1981～2016年間、20歳代が最も「やせの割合」が高いが、2011年をピークにその後減少傾向である。30歳代は2000年、40歳代は2009年頃をピークにその後は減少傾向である。しかしながら、50歳代は2006年頃より増加傾向が続いている。1981年と2016年の変化率を比較すると、20歳代は1.6倍、30歳代は1.7倍、40歳代2.7倍、50歳代1.6倍であり、40歳代の増加率が最も高かった。(200字)

問3は、平成29年度国民健康・栄養調査の「目標とするBMIの範囲の分布（20歳以上、女性・年齢階級別）」について示したグラフである。データを的確に読み取り、その傾向と現在の我が国の栄養問題に対する背景や知識（問1の文章も情報となる）を加えて、自分の考えを端的にまとめることができるか否かを判定した。

(模範解答)

図より「標準」の割合は年齢層が上がる程、減少傾向にあり、70歳以上では「やせ」、「標準」、「肥満」のある割合が各々3割程度と「標準」の者の割合が少ない傾向である。「やせ」の割合は、70歳以上が35%以上と最も高く、次いで50歳代、20歳代である。このことから、最近の我が国の体格の特徴として、高齢者の「低栄養」、若年女性の「やせ」が問題となっていることが考えられる。高齢者は、生理機能の低下、食事摂取量減少のため低栄養状態になることが懸念される。また、若い女性は痩身願望が強いことにより偏った食事が危惧される。また、「肥満」の割合は50歳代以上で増加傾向にあり、生活習慣病のリスクの増加が示唆される。

(300字)